

各校の特色(児童生徒数は、令和6年4月1日見込み)

	子どもが主役の学校づくり	特色ある教育活動
本町小学校 全校児童 734人	<p>・「ふるさと科」の学校全体での取り組みの充実 地域に学習の材料を得る取り組みは、多くの専門家と子どもたちをつなぐことが可能となり、学校での学びに社会とのつながりを実感でき、必要感を味わうことができる。また、専門家の言葉の魅力は子供達に大きく訴えるものがあるので、子どもたちの学習意欲を高めることにもつながると考える。</p> <p>・教科担任制(交換授業)の継続 校内の多くの職員とのつながりを構築し、相談しやすい環境を整備するとともに、組織対応の充実につながる。</p> <p>・個別最適な学びへの意識を高める 学び方や進める速さは一人ひとり異なるので、それぞれに合った方法と速さで学習が進められる場の確保と、子ども自身が自分に合う学び方を見つけられるよう指導に努める。そのために、ICTを有効活用した個別課題の提供や寺子屋の活用を進める。</p> <p>・読書活動の推進と学習活動への新聞の活用 家庭と連携しながら本を読むことの楽しさや、新聞の紙面を通じた様々な事象や考え方の出会いの機会を提供することで、興味や考え方の範囲が限定的になりにすぎないようにする。ゲームやSNSへの過度な依存を防ぐ一助にもなると考える。 学校が安心・安全で楽しい場であれば子供たちの学びは豊かなものになり、学力の向上にもつながる。全国学力学習状況調査や学びの基盤プロジェクトの結果として子どもたちが伝えてくれている課題を指標として共有しながら学校創りを進めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を目指した 学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 (本町小中一体型学校運営協議会設置) ・ふるさと科研究推進校 ・非認知能力育成プログラム 「みらいグロース」実践推進校 ・授業力向上のための ステップアップ講座導入校 ・新聞を教材として活用する NIE教育実践推進校 ・読書活動重点推進校 (学校図書室の地域開放) ・民間企業と連携した 金融教育実践推進校 ・通級指導教室設置校
南小学校 全校児童 1181人	<p>あいさつからはじまる笑顔あふれる学校づくり</p> <p>子どもたちが「明日も行きたい学校」として毎日を過ごすことができるように、次の視点を重点に取り組む。</p> <p>【一人一人を認め合う学校】 学習や生活場面での児童のかかわりあう機会を増やしていく。互いに認め合い、学び合うために、まずは自分自身を認めること、自己肯定感を高めることを支援していく。「自分にはよいところがあると思いませんか」という質問への肯定的な回答が増えるように、児童が認められる様々な機会を意図的に設け、励ましながら支えていく。</p> <p>【子どもが主役の学校】 学習への意欲「学校の学習を好き」や子ども自身の学習を振り返る機会「学習したことがわかる」という質問を設けて、達成感や充実感等の実態を確認しながら意欲を高められるようにする。 また、全国学力・学習状況調査や学びの基盤プロジェクトを支援にいかすことができるようするとともに、引き続きあいさつプロジェクトや読書活動の推進についても子どもの主体的な取組に結び付くように工夫していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を目指した 学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 ・ふるさと科研究推進校 ・授業力向上のための ステップアップ講座導入校 ・読書活動重点推進校
東小学校 全校児童 554人	<p>「人を大切にしたい学校づくり」</p> <p>引き続き「学びの基盤プロジェクト」に参加し、児童の非認知能力の向上を図る。経年変化から児童の良さを再確認し、授業改善に生かすことで個々の自己肯定感を高め学びへの意欲に繋げていく。学習状況調査で「国語・算数が好き」と答える児童の割合が少ない結果が出た。学習の定着が不十分で躓いていることが考えられるので、宿題の内容・出し方の改善や、東っ子チャレンジ教室を積極的に保護者へ周知し、放課後の学習環境を整えることに取り組む。</p> <p>「読書の森」を積極的に広め、東公民館の図書室や学校司書と連携し、読書活動に取り組む。読書に親しむことで、語彙を増やし、本の話題から友達との交流を深め、コミュニケーション能力を高めることに繋げていく。</p> <p>インクルーシブな学校づくりとして、「りらくすルーム」を引き続き設置する。日頃の児童の様子から不登校に繋がる兆候を見極め、家庭と教室との間の場所としても活用していく。また、取り出しなどの個別支援の充実、SCや教育相談コーディネーター、児童指導担当の連携を深め、先生方への支援の充実を進めていく。さらに保護者や地域の方へボランティアを募り、支援の輪を広げていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を目指した 学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 (東小中一体型学校運営協議会) ・民間企業と連携した プログラミング教育実践推進校 ・授業力向上のための ステップアップ講座導入校 ・読書活動重点推進校
北小学校 全校児童 642人	<p>エシカル教育を中核にした北地区学校生活の創造</p> <p>1 エシカル教育を中核にした新しい学校生活の創造 ・ICT活用授業研と個人追究型研究をリンクさせた校内研究のさらなる充実 ・5,6年生によるキュビナを活用した国語、算数の自主学習システムの構築 ・小中連携した全国学状、埼玉学状の分析検討と手だての共有 ・全校一斉長期休業あけ漢字テストと新6年向け校長200問漢字テストの継続</p> <p>2 学校、保護者、地域絡ぐるみで北っ子の資質・能力を育む次世代の学校づくり ・地域と共にある園小中一貫教育の充実 ・よむよむデイのさらなる充実を図るための地域や教員による読み聞かせ ・地域移行を進める寺子屋事業の連携と拡充</p> <p>3 人権感覚の育成と実践を重視した、通いたい・勤めたい学校づくり ・学校運営協議会で共有された学校イベントと地域イベントのマッチング ・警察と連携した防犯教育・交通安全教室の継続実施 ・ストレスチェックの結果の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を目指した 学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 (北小中一体型学校運営協議会) ・ふるさと科研究推進校 ・非認知能力育成プログラム 「みらいグロース」実践推進校 ・読書活動重点推進校 ・義務教育学校研究モデル校

<p>大根小学校 全校児童 425人</p>	<p style="text-align: center;">確かな学び・豊かな心の育成・信頼される学校</p> <p>一つ目は「確かな学び」の育成に向けて、基礎的・基本的な知識と技能の定着のために、学習規律の習得はもとより、少人数指導、合同授業、交換授業などの多様な指導体制を工夫すること。授業改善の充実を図るために、主体的に学習に取り組む態度の育成に努め、非認知能力を養うこと。具体的には、校内研究を通じて、教師の授業力向上と指導と評価の一体化に取り組んでいく。</p> <p>二つ目は、「豊かな心の育成」に目指して、児童理解に努めるとともに、多様性を認めていく。不登校児童の未然防止対策を第1に考えて、日頃から丁寧な個別対応を心がけると共に登校渋りの児童に対する初動の対応を校内で共通理解して進めていく。さらに児童指導委員会やいじめ対策委員会を充実させるとともに、未然防止の強化と常に複数人のチームでの対応を実践していく。</p> <p>三つ目は、「信頼される学校」づくりを目指して、学校から保護者への情報発信の場とその方法について検討していくことが課題である。学校評価アンケートでは、保護者が「わからない」という回答する割合が増えている。また「学校の様子が伝わってこないため、アンケートの項目に答えることが難しい」「何を見て、判断し答えればいいのかかわりにくい設問があり回答に困った」とのお声をいただきました。これらことから、学校は保護者の声が届きやすい場になると同時により信頼されるために、常に心のこもった丁寧で素早い対応を心がけるとともに、学習活動や集団生活を通して、児童のよりよい成長が感じられる機会を増やしていくことが必須であると考えます。</p> <p>最後に教職員が同じベクトルで学校運営に携わることが重要なので、総括教諭をリーダーとし若手教員の育成に力を入れ、コミュニケーションを大切にしながら協働体制を構築していく。</p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を目指した 学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 (大根広畑小中一体型 学校運営協議会) ・ふるさと科研究推進校 ・民間企業と連携した 効果定量型環境教育実践校 ・義務教育学校研究モデル校 ・通級指導教室設置校
<p>西小学校 全校児童 641人</p>	<p style="text-align: center;">心豊かでたくましい西っ子の育成をめざして</p> <p>予測不能な未来を生きていく子ども達の幸せのために何ができるのか、職員一人一人が考えるときなのだと思う。</p> <p>・全国学力学習状況調査や学びの基盤プロジェクトに参加することで、全体の傾向や個々に生かせる支援について分析し、西小の子ども達にあった学習スタイルを研究する組織作りをする。</p> <p>・読書活動について、66%の子どもが肯定的な回答である。割合としては決して高くないが、様々な余暇の過ごし方がある中、半数以上の子が肯定的であることは悪い結果ではないと考える。来年度は、学級文庫の充実等、手に取ってすぐに読書ができるような環境整備や保護者への貸し出し等家庭でも関心が持てるような取り組みをしたい。</p> <p>・今年度、園小接続カリキュラムに取り組んだことで、その入口に立つことができたとと思う。今後は学びと育ちの連続性を、児童の活動や職員の交流だけでなく西地区の園小中の根底にある考え方を系統立てて繋いでいく必要があると考えます。まず、職員同士が共有し理解し合える場の設定があるとよい。</p> <p>・来年度も、経験の少ない職員が増えることが予想される。市の教育指導施策に積極的に参加させていただき、プロフェッショナルな学びができる場を作りたい。</p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プロジェクト 学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 ・非認知能力育成プログラム 「みらいグロス」実践推進校 ・授業力向上のための ステップアップ講座導入校 ・読書活動重点推進校 ・民間企業と連携した 金融教育実践推進校 ・民間企業と連携した 効果定量型環境教育実践校 ・民間企業と連携した 主権者教育重点推進校 ・「早寝・早起き・朝ごはん」推進校 ・通級指導教室設置校
<p>上小学校 全校児童 74人</p>	<p style="text-align: center;">少人数による特色ある学校づくり推進(小規模特認校制度導入)</p> <p>1 主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくり 校内研究・総合的な学習・生活科の授業・幼小連携・地域や外部講師を活用した学習活動等を通して児童の自主的に学ぼうとする意欲や自己教育力の育成をめざす。</p> <p>2 チーム上小として地域・保護者とともに歩む 全教職員で情報交換を密にして共通理解を図り、今年度以上に温かい見守りと個に応じた支援をめざす。</p> <p>3 業務改善を行い、働き方改革を心がける。 行事の精選・実践方法の改善、ICT機器の効果的な活用等を通して働き方改革を推進していく。</p> <p>4 家庭学習、読書の推進に努める 学校アンケートでの結果において他の項目より肯定が少なかったため、家庭学習の充実とともに次年度より図書室の保護者への開放に取り組んでいく。</p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プロジェクト 学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 ・読書活動重点推進校
<p>広畑小学校 全校児童 110人</p>	<p style="text-align: center;">「小さな学校」の強みを生かして子どもを育む地域の学校</p> <p>1 非認知能力のさらなる伸長 継続的に児童の学力の伸びが見られ、分析もされているので効果的に学習することができる「学びの基盤プロジェクト」、育成プログラムとしての「みらいグロス」などを経て、児童の非認知能力は高まっていると思われた。さらに伸ばすために「自分には良いところがある」「自分で考え自分で取り組んでいる」と自信をもって笑顔で答えられる児童を育成していきたい。そのためには継続して「学びの基盤プロジェクト」を実施し、家庭と連携を取りながら「ほめて伸ばす」ことを心がけるようにしていきたい。また、魅力的な授業・児童が主体的に学習する授業・わかる授業に向けて校内研究では、講師や市教委指導主事のご指導をいただきながら職員一丸となって取り組んでいきたい。</p> <p>2 読書活動の推進 ICT機器が児童の生活に身近なものになって来ている一方、本が遠ざかっているのは児童へのアンケートからもうかがえた。市内の小中で行う「読む読むデー」のほか、本校の「朝読書」の時間など本にふれる時間は設定しているものの、どんなものを読んだらいいかわからないという児童が多く見受けられる。そこで、学校司書との連携を昨年度以上に図り、「その本を読んでみたい」という気持ちを持ち、読書が好きになるように具体的な取り組みをしていきたい。</p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プロジェクト 学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 (大根広畑小中一体型 学校運営協議会) ・ふるさと科研究推進校 ・非認知能力育成プログラム 「みらいグロス」実践推進校 ・読書活動重点推進校 ・義務教育学校研究モデル校

<p>渋沢小学校 全校児童 733人</p>	<p style="text-align: center;">子どもたちが行きたいと思えるウェルビーイングな学校</p> <p>【1】ねばり強く学びに向かう力の育成 <u>○非認知能力に着目した、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実</u> ・学び合いの場づくり・学びの自己調勢力（自己決定）の育成 ・基礎となる土台づくり・間違い（たたき台）から学ぶ場づくり ・家庭学習の習慣化・読書活動の活性化</p> <p>【2】ゆたかな心の育成 ○自分も人も大切にできる態度 ・<u>自己肯定感を高める特別活動の推進【横（学級、学年）縦（異学年）のつながり】</u> ・集団の中で多様な個を認め、一人一人がいきる、学級、学年、学校の創造 ・積極的児童指導</p> <p>【3】健やかな体の育成 ○命を大切にできる教育 ・いじめ、不登校、不応答への迅速、丁寧な対応 ・みんなの命を大切にできる安全・防災教育 ・体を動かすことを楽しいと思える取り組み、習慣化 <u>・保健指導、食教育を中心に据えた、基本的生活習慣の定着</u></p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プロジェクト ・学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 （渋沢小中一体型学校運営協議会） ・ふるさと科研究推進校 ・授業力向上のための ステップアップ講座導入校 ・読書活動重点推進校 ・民間企業と連携した 効果定量型環境教育実践校 ・義務教育学校研究モデル校
<p>末広小学校 全校児童 523人</p>	<p style="text-align: center;">マスコットキャラクター</p> <p>末広小学校は、地域学習をもとにした探究活動の展開や各教育活動の達成度の数値化及びそれをもとにした改善といった特色があるので、それらの取り組みを一層進めると、地域・保護者と一体となつての学校づくりを進めていきたい。具体的には様々な各行事や日常の教育活動などに<u>地域の方や保護者のボランティアの参加を推進</u>し、ボランティア活動を通して学校の教育活動への理解を図る。さらに参加ボランティアの中から学校運営協議会委員を選出し、学校の教育活動の評価をになっていただくような体制づくりを進めたいと考える。</p> <p>学力向上に関する取り組みとしては、児童一人ひとりが自分の考えを表現できる授業づくりについて一層の取り組みを進める。その取り組みの成果の確認として、学びの基盤プロジェクトによる非認知能力の把握やその関連性を踏まえ、授業づくりへの理解を一層深め、児童一人ひとりが考えを持ち、その考えを様々な形で表現できるように、学習形態や表現する場などの工夫についての研究を一層進めていきたい。また、学びのステップアップ講座などの研修などで得た教育情報についても共有化を図り、それらをかいた授業を日常的に行うことができるようにする。そうすることにより<u>「学習が好き」という子どもを育むことができ、学力向上につながる</u>と考える。</p> <p>また昨年度に引き続き、児童一人ひとりが笑顔で過ごせるような居場所づくりについては、教育相談コーディネーター及び児童指導主任を中心に児童理解に努め、SCやSSWなども連携しながら、きめ細やかな児童指導体制を構築し、児童の特性の把握や児童にかかわる課題の早期発見・早期解決に努めるとともに、教師一人ひとりが学級担任としてでなく学年担任・学校担任としての意識をもち、児童一人ひとりが笑顔で安心して過ごすことができるように、<u>課題となりそうな物事の未然防止に努めることができるような体制づくり</u>を進めたい。</p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プロジェクト ・学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 ・ふるさと科推進研究校 ・非認知能力育成プログラム 「みらいグロース」実践校 ・授業力向上のための ステップアップ講座参加校 ・読書活動重点校 （学校図書室の地域開放実施） ・文部科学省 読書活動優良実践校受賞 ・文部科学省指定 フルインクルーシブ教育実践校 ・通級指導教室設置校
<p>南が丘小学校 全校児童 559人</p>	<p style="text-align: center;">本校のイチオシ～テーマは「幸せな学校」</p> <p>基本的経営方針「幸せな学校」は変わらないが、園保等と小・小と中の連携をより意識し、小学校を軸として地域を巻き込み広い視野に立つて「幸せな学校」づくりに努めていきたい。</p> <p>1 安全安心 児童アンケートから「学校の先生に相談できる」の項目が低かった。教職員が日頃から児童との信頼関係が築けるように声かけやかかわり方に配慮するとともに、<u>個々面談をとる時間を確保する</u>など、相談しやすい場を設定し早期の対応に努めていく。</p> <p>2 学びの充実 今年度から実施している<u>高学年専科を継続</u>し、担任の交換授業と合わせて、学びの充実を図る。また、校内研究の継続的実施とともに、各種調査の分析や共有を含め、現状の把握と授業改善の在り方を教職員自身の課題として検証し実践していく。</p> <p>3 総合的な学習の時間 <u>仮称「丘チャレンジ」とし、探求的な学習によりチャレンジする意識を高める。また、一定時間を「ふるさと科」に当て、学年に応じた地域学習を進めるとともに、長期休暇中にも時間を割り振り、主体的な学習の取り組みを進める。</u></p> <p>小中連携をより進めるため（キャリア教育の観点からも）、児童や教職員が中学校を訪問する機会を増やしたり、合同で研修会を実施するなど、具体的な手立てを推進したい。</p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プロジェクト ・学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 （南が丘小中一体型学校運営協議会） ・ふるさと科推進研究校 ・非認知能力育成プログラム 「みらいグロース」実践校 ・読書活動重点校

堀川小学校 全校児童 465人	<p style="text-align: center;">堀っ子スマイルユニバース</p> <p>いじめ防止対策の見直し いじめ対策については「未然防止」「早期発見」「早期対応」の3点が必要であると考えている。年度当初より全職員で本校のいじめ防止対策基本方針に書かれている内容を共有すると共に、より機能的・組織的な対応が取れるように必要な改善を図ることで、保護者の信頼を得られるように努めていきたい。</p> <p>校内研究を核とした学力向上と授業改善 校内研究を核とした授業改善に取り組むことで、全職員が同じ方向を向いての学力向上に向けて取り組めると考える。ICTを活用した授業づくりについて3年間の研究を経て一定の成果が得られた。それを土台として、更に本校の児童の実態に則した新たな切り口で校内研究を立ち上げることで、今後の学力向上や授業改善に取り組んでいきたい。</p> <p>職員の業務改善 本年度、職員の業務改善についての意識改善を目指して、意図的な年次休暇の取得の取り組みを行った。しかし、まだまだ超過勤務の職員も多く更なる業務の見直しが必要である。業務や組織の見直しを図ると共に、新しく導入される校務支援システムを有効活用することで業務改善を推進し、教職員が健康状態を損なうことなく教育活動に取り組めるように学校組織のマネジメントを図る必要がある。 経験年数が少ない教員が多く職員の構成年齢も若い本校であるが、逆にそこを強みと捉え、若い職員がやりがいを感じて責任ある校務に取り組み、学校全体でサポートできるような組織を作り上げることで、本校の教育活動の更なる充実につなげていきたい。</p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力向上を目指した 学びの基盤プロジェクト実践校 コミュニティスクール実践校 読書活動重点推進校 (学校図書室の地域開放) 民間企業と連携した 主権者教育重点推進校
鶴巻小学校 全校児童 760人	<p style="text-align: center;">思いやり・笑顔あふれる学校づくり</p> <p>「つるふ言葉」の継続 鶴巻スタンダードとして全校にさらに浸透させていきたい。発達段階に即したもからステップアップを図り、全校統一の言葉で取り組むことで、より望ましいコミュニケーションの形成と共に、自己肯定感の向上に繋げていく。その結果、「協働と信頼」を基本とした学級経営の推進を図る。</p> <p>2 学習指導の充実について 児童のニーズや進捗に応じた個別指導ができるように、校内研等で教師の専門知識や、教育技術の向上のための研修やサポートを充実させる必要がある。来年度の学びの基盤プロジェクトの参加を通して、児童への定期的なフィードバックや評価を図りたい。</p> <p>3 不登校児童への対策 児童に関わる様々な情報を収集し、適切に検証し、関係諸機関との連携を引き続き行うことで、児童理解をさらに深めていく必要がある。新たな課題に対して落ち着いた確かな対応ができるよう、研修会や研修報告会、ケース会議等を通して、教職員の指導力の向上を図り、課題の予防・発見・解決に努めていく。 家庭や地域に対して、教育活動に関する内容を学校便りや学年便り等を通して適宜発信し、学校への理解を図ると共に、家庭・地域の声に常に耳を傾けていく。また、市の教育施策が効果的なものとなるように足並みを揃え、学校運営協議会の設置に向けて推進していきたい。</p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力向上を目指した 学びの基盤プロジェクト実践校 コミュニティスクール研究校 ふるさと科研究推進校 授業力向上のための ステップアップ講座導入校 読書活動重点推進校
本町中学校 全校生徒 640人	<p style="text-align: center;">活発な生徒会活動と自己肯定感や課題解決力の向上</p> <p>一人ひとりが豊かな生活を送るために、自らの希望を持ち、仲間と関わる中で心身を高めあう学校を目指し、「誰もが幸せな学校づくり」を学校経営のミッションと考え、(1)～(4)を中心に取り組んでいく。 (1)ピアサポート(デジタル通学路マップ、サイバー防犯、小学校での仲間づくりプログラム)を年間の活動と位置付け、生徒の自己肯定感を高める活動として推進していく。 生徒の主体性を育むことにより自己肯定感や課題解決能力が向上すると考え、本町中生3つの心「自ら学ぶ心・思いやる心・やり抜く心」を兼ね備えた「たくましく、しなやかな人」の育成を目指す。 (2) ICT機器等を活用し、よりよい学び(学力向上)につなげていく取組を推進していく。そのため、目指す教師の姿として謙虚な姿で学ぶ心・組織力・創造力を兼ね備えた「学び続ける教師」の集団を目指す。 (3) 人権教育を推進することにより安心安全な学校づくりを目指す。それには学校組織マネジメントを活用し生徒指導に特化した組織力の向上(情報共有の迅速化)を図る。 (4) 信頼される学校づくりの推進として、防災教育や危機管理体制の確立を目指す。また、地域の方々とともに校内外のパトロールや挨拶声かけ運動に取り組み、デジタル通学路マップを推進し、小学校や幼稚園、こども園との情報共有を引き続き図りたいと考える。(CSを活用していく。)</p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力向上プロジェクト 学びの基盤プロジェクト実践校 コミュニティスクール実践校 (本町小中一体型学校運営協議会) 通級指導教室設置校
南中学校 全校生徒 547人	<p style="text-align: center;">自他を大切に、自ら前向きに挑戦する生徒の育成</p> <p>1 学習指導について (1) 興味・関心を抱き、意欲的に学習に取り組む生徒の育成を目指します。 (2) キュービナ等ICTの活用や「学びの基盤プロジェクト」等を通じて、個別最適な学びを目指します。</p> <p>2 生徒支援について (1) 生命や人権を尊重し、互いに認め合い支え合う共生の心を育てます。 (2) 「支援の必要な生徒は、すべての生徒である」との考えのもと、教育相談と日頃の「寄り添う支援」を通じて関係性を深めるとともに、生徒・保護者の声に耳を傾け、実態に応じた学びの場を探ります。 (3) 教職員は日頃の情報交換を密にし、組織的な対応を心掛けていきます。</p> <p>3 地域連携について (1) 学校は保護者や地域の方々の協力、支援を得て成り立っていることへの感謝を持ち、ふれあい講座や南校祭、職場体験等を通じて地域との連携を深めます。 (2) 長期的な視野で地域連携のために、コミュニティスクールの立ち上げを目指します。</p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力向上プロジェクト 学びの基盤プロジェクト実践校 コミュニティスクール実践校 授業力向上のための ステップアップ講座導入校 休日部活動の地域移行実践校 新聞を教材として活用する NIE教育実践校 通級指導教室巡回設置校

<p>東中学校 全校生徒 265人</p>	<p style="text-align: center;">たくましさ あたたかさ しなやかさを育む学校</p> <p>1 魅力ある学校づくり (1) 多様な学びに対応する教育内容の充実 ア 「<u>はだのっ子アワード事業</u>」への積極的な参加によるふるさと秦野を愛する生徒育成 イ <u>新聞教育(NIE)と「わくわく読書プラン」の充実</u> ウ ICTを活用した個別最適化 <u>・適時、CBTによる指導と評価の好循環</u> <u>・個に合わせたオンライン学習の活用</u> (2) 不登校生徒や多様な学びへの様々なアプローチ ア 教育相談の充実とSCとの情報共有 イ 関係機関とのさらなる連携 ウ <u>合理的配慮への教職員の理解促進</u> 2 働き方改革のさらなる推進 (1) <u>地域部活動への完全移行に向けて</u> ア 教職員間での共通理解を図るための研修会実施 イ 地域に合ったスタイルを探る ウ 地域人材の発掘 (2) CBT化による成績処理作業の効率化 ア <u>ICT教育推進委員会の活性化</u> イ 新校務支援システムへの移行と研修</p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を目指した 学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 (東小中一体型学校運営協議会) ・授業力向上のための ステップアップ講座導入校 ・新聞を教材として活用する NIE教育実践校 ・読書活動重点校 ・休日部活動の地域移行実践校
<p>北中学校 全校生徒 373人</p>	<p style="text-align: center;">誰もが安心・安全に過ごせる北中学校</p> <p>1 安心・安全で通いたく学びたくなる学級・学年・学校づくりを全職員で進めていきます。 (1) ピア・サポート活動を基盤とした生徒主体の仲間づくりを推進します。 (2) 避難訓練や防災学習を通して、安心安全な学校づくりを推進します。 2 学力向上においた取り組みを進めます。 (1) <u>基礎的・基本的な学習の定着</u>を進め、生徒の学力向上を意識した授業を行います。 (2) <u>ICT教材(キュビナ等)を効果的に活用した授業の予習復習と家庭学習の継続をめざします。</u> (3) <u>学びの基盤プロジェクトのデータを活用</u>し、生徒の自己のふりかえりとともに、経年変化やデータ分析から生徒の非認知能力・認知能力を伸ばす環境・人的要因の共有をはかります。 (4) <u>県や市の作品募集を計画的・効果的に活用し生徒の得意で輝ける場を増やします。</u> 3 基本的な生活習慣と行動力の育成に向けた取り組みを進めます。 (1) 携帯機器の使用時間など、健康面にも留意した適切な使用方法が身につくよう保護者と連携を進めていきます。 (2) <u>SNS等のネットトラブル防止への啓発活動</u>(警察をはじめとした関係諸機関の協力)を計画的に行い、随時集会など様々な場面で伝えていきます。 (3) <u>電子書籍を含めた読書活動(よよむタイムを中心に)をさらに推進</u>し、図書委員会の活動に<u>読書検定を取り入れるなど、受動的インプットに加えて能動的アウトプットを増やす取り組み</u>へつなげていきます。</p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を目指した 学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 (北小中一体型学校運営協議会) ・ふるさと科研究推進校 ・授業力向上のための ステップアップ講座参加校 ・読書活動重点推進校 ・民間企業と連携した 金融教育実践推進校 ・防災ジュニアリーダー育成研究校 ・義務教育学校研究モデル校 ・通級指導教室巡回設置校
<p>大根中学校 全校生徒 325人</p>	<p style="text-align: center;">自立と共生</p> <p>1 学力の向上 「<u>学びの基盤プロジェクト(学びのカルテプラン)</u>」で得られた結果を適切に分析し、<u>生徒に有効に還元</u>しつつ、教員の授業改善に生かせるような取り組みを目指したい。そのために、学力学習状況テストの内容を授業で取り扱うことを大切にしたい。それらの機会と方法を具体的に教職員に提示していく。また、定期テストと適切な評価の在り方について、教職員と検討する機会を複数設けたいと考えている。 2 生徒の情操面(非認知能力)を育む <u>例年の踏襲に陥らない学校行事等に取り組みたい。</u>常に、子どもたちが成長することのできる行事としての目的と、その手段との最適な組み合わせを考えてプランニングできるように、教職員で様々な改革やアイデアを生み出していきたいと考える。具体的には、開催日が10月に移動し、平日開催となる体育祭の日程や内容などに、例年とは違う準備スケジュール等を意識して、給食の日課なども考え、工夫した計画となるように努める。そして、合唱コンクールについては、自校の体育館ではなく、東海大学のホールを借りることで、保護者の入替えをせず、また地域でお世話になっている方を招いたり、受付や交通安全のボランティアとして募集したりして、地域の方々にお披露目するとともに、地域の方々とする行事としたい。 3 <u>PTA改革の推進</u> 令和7年度から現行のPTA組織を改めることについて、令和6年度のPTA本部役員とともに、「保護者会」の在り方など、詳細な部分について検討していきたい。 4 教職員が子どもたちと向き合う時間の確保 多様な課題やニーズを抱えている子どもたちと十分な対応ができるように、教職員の業務負担軽減を図りたい。今年度に引き続き、<u>校内の部活動指導の終了時間(完全下校時間)を勤務時間内の17時とする</u>ことを目指して、職員会議で合意形成するとともに<u>部活動に積極的に取り組みたい教職員には、地域クラブ化することを推奨</u>していきたい。</p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を目指した 学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 (大根・広畑 小中一体型 学校運営協議会) ・ふるさと科推進研究校 ・授業力向上のための ステップアップ講座参加校 ・読書活動重点推進校 ・民間企業と連携した 金融教育重点実践校 ・民間企業と連携した 主権者教育重点実践校 ・東海大学と連携した 休日部活動の地域移行実践校 ・義務教育学校研究モデル校 ・通級指導教室設置校

<p>西中学校 全校生徒 612人</p>	<p style="text-align: center;"><u>〈自主〉〈自立・自律〉〈自信〉を育む教育活動の推進</u></p> <p>1 授業力の向上について <u>学びに基盤プロジェクトでは、来年度が2年目となり、経年で伸びを確認できることから、校内はもちろん家庭とも緊密に情報を共有・連携するとともに、今年度実施した『協働的な学び』についての研修を更に充実させ、生徒の深い学びに触れる授業力の向上・改善に努めたい。具体的には、今ある授業からの脱却を目指し、主体的・対話的な学びをベースとした深い学びにつながる授業スタイルや展開例を、定期的な研修会や学習会を通して教職員全体で共有し、授業改善につなげていきたい。</u></p> <p>2 教職員の働き方について <u>様々な要素が関わってくるが、今回導入いただく新たな校務支援システムの効果的な活用を通しての業務改善や、部活動の地域移行による休業日における働き方改革を進めていきたい。</u></p> <p>3 ピアサポート活動とコミュニティ・スクールの持続可能な展開 <u>本校の基礎となる2つの大きな柱ではあるが、定着すれど形骸化にならぬよう、それぞれのあり方について検討し、持続可能な取り組み方法を形づくっていききたい。</u></p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を目指した 学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 ・授業力向上のための ステップアップ講座導入校 ・民間企業と連携した 主権者教育実践推進校 ・休日部活動の地域移行実践校 ・通級指導教室巡回設置校 ・「早寝・早起き・朝ごはん」推進校
<p>南が丘中学校 全校生徒 345人</p>	<p style="text-align: center;"><u>「ありがとうと笑顔のあふれる南が丘中学校」</u></p> <p>1 生徒主体の活動の充実 <u>具体的には学校行事や生徒会活動、ボランティア活動、園小中高の交流など。</u></p> <p>2 学習活動の充実 <u>「学び合い」の校内研究を継続し、生徒の学習改善、職員の授業改善を推進する。学びのカルテプランの検討会の活用。また、課題解決学につながる総合的な学習の時間の充実。丘のよむよむDAYの継続。全国学力学習状況調査で課題として見えてきた「自分の考えを書く、説明すること」について、すべての教科で共有し、授業改善に努める。また、各教科で「ふるさと科」の視点を持った単元の学習内容を精査する。</u></p> <p>3 職員同士の学び合う同僚性を醸成 <u>学習指導、生徒指導・支援をテーマとした年3回のOJT研修では、学年、校務分掌を超えた経験年数の異なった職員が集まるグループ分けにより、先輩からのアドバイス、若手からの得意な分野の研修などを行う。併せて、総括教諭、各支援部長、学年主任、生徒指導担当を中心として、職員室内での日常の情報共有を大切にする風土づくりに努める。</u></p> <p>4 働き方改革の推進 <u>部活動改革担当を置き、部活動の地域移行や活動の在り方について、引き続き、職員、学校運営協議会での検討を推進する。地域文化・スポーツ倶楽部の設立に向けた検討。</u></p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を目指した 学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 (南が丘小中一体型学校運営協議会) ・ふるさと科研究推進校 ・授業力向上のための ステップアップ講座導入校 ・読書活動重点推進校 ・休日部活動の地域移行実践校
<p>渋沢中学校 全校生徒 359人</p>	<p style="text-align: center;"><u>日本一の八重桜の里</u></p> <p>(1) こども園小学校との連携 <u>一貫教育を学校運営協議会に取り込みながら、できることからチャレンジする。</u></p> <p>(2) 自分によいところがあるか <u>7割は悲観的である。教員が個性を伸ばそうという意識が低いので、そこから切り込みたい。</u></p> <p>(3) 読書が好き <u>本は目に付くところによく置いてあるが、意図的に本に触れさせることが必要である。図書館利用の促進と昼食前の読書タイムなどを提案したい。</u></p> <p>(4) 地域や社会のことを考える <u>本年度の研究の甘さが影響していると思われる。授業や行事の取組の中に「考える時間」をつくりたい。</u></p> <p>(5) ボランティア活動 <u>職員の業務過多がネックになっている。保護者と協力し、子どもたちだけで参加する方法を模索する。</u></p> <p>(6) さらに学びたい授業づくり <u>外部からは、「ポテンシャルはあるが、基礎力が弱い」と指摘されている。「寺子屋の様子から見ても、需要が高いので、学校独自で寺子屋ができるか模索したい。</u></p> <p>(7) テストや評価に対する助言やアドバイス <u>現行の評価方法について、生徒や保護者に向けての説明が圧倒的に足りない。教員と保護者と両方の意識改革が必要である。</u></p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を目指した 学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール実践校 (渋沢小中一体型学校運営協議会) ・授業力向上のための ステップアップ講座導入校 ・通級指導教室設置校
<p>鶴巻中学校 全校生徒 366人</p>	<p style="text-align: center;"><u>学校行事・広島平和学習</u></p> <p>道徳教育・人権尊重の教育を計画的に実践し、他の立場を考え、他を理解し、自他ともに大切にできる心を育てることに重きを置き充実させていきたい。</p> <p>特に育てる力として「自分も他人も同様に大切にできる」「違った考えの人がいることを認められる」「話を聞き相手の気持ちを考えられる、感じられる」「自分の気持ちを相手に伝えられる」「人として、しなければならないことを判断でき、実践できる」「人として、してはならないことを判断でき、実践できる」の6つを設定する。</p> <p>特に具体的な取り組みとしては、次の3点を基盤として、「こころの教育」の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒に必要な指導項目を絞り、考えさせ、発言できる道徳授業を実践する。 ・年間を見通して人権・平和教育、福祉教育等を効果的に設定する。 ・必要に応じて地域や外部講師による授業、校外学習等を導入し、学習の効果を高める。 <p>また「ひらかれた学校づくり」の観点からとして地域の避難所運営訓練に生徒と職員が参加することを検討し、現実には即した諸防災計画を立て、防災訓練等で検証していく。様々な諸活動を地域の方々を巻き込んだ生徒とのつながりの持てる活動を展開し、鶴巻地区の伝統である子どもを育む会との連携を図りながら、学校運営協議会についても研究推進し、地域に信頼され、地域とともにある学校づくりの一環としていきたい。</p>	<p style="text-align: center;">特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を目指した 学びの基盤プロジェクト実践校 ・コミュニティスクール研究校 ・通級指導教室巡回設置校